



コンピューティングリソースの管理

- [VMware vCenter Server の管理 \(1 ページ\)](#)
- [コンピューティングリソース パフォーマンスのモニタ \(3 ページ\)](#)

VMware vCenter Server の管理

VMware vCenter Server の追加、削除、編集、同期、および一括インポートを行うことができ、さらに、データセンター、クラスタ、ホスト、および仮想マシン (VM) のようなコンピューティングリソースの完全なインベントリを表示することもできます。

関連トピック

- [VMware vCenter Server の追加 \(1 ページ\)](#)
- [vCenter をインポートするための CSV ファイルの要件 \(2 ページ\)](#)

VMware vCenter Server の追加

VMware vCenter Server を管理するために、手動でそのサーバを追加するには、次の手順を実行します。

はじめる前に

vCenter サーバのインベントリ情報を収集するには、データセンター ハイパーバイザライセンスをインストールする必要があります。このライセンスを追加する方法については、『[Cisco Prime Infrastructure Admin Guide](#)』ガイドの「[Licenses and Software Updates](#)」の章を参照してください。

- ステップ 1** [インベントリ (Inventory)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [コンピューティングデバイス (Compute Devices)] を選択します。
- ステップ 2** [コンピューティングリソース (Compute Resources)] ペインから、[ディスカバリソース (Discovery Sources)] をクリックします。
- ステップ 3** [デバイスの追加 (Add Device)] ドロップダウンリストから、[デバイスの追加 (Add Device)] を選択します。

ステップ 4 [ディスカバリ ソースの追加 (Add Discovery Source)] ダイアログボックスに、次のパラメータを指定します。

1. [プロトコル (Protocol)] : [HTTP] または [HTTPS] を選択します。
2. [サーバ (Server)] : vCenter サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
3. [ポート (Port)] : HTTP の場合は「80」、HTTPS の場合は「443」と入力します。
4. [ユーザ名とパスワード (Username and Password)] : vCenter サーバへのログインに必要なクレデンシャルを入力します。

確認のために、パスワードをもう一度入力する必要があります。

(注) パスワードにはカンマ (,) を使用しないでください。使用すると、Prime Infrastructure にデバイスを追加するときにパスワードが分割されます。

ステップ 5 (任意) vCenter サーバを追加する前に、[クレデンシャルの確認 (Verify Credentials)] をクリックして、入力したクレデンシャルが有効であることを確認します。

ステップ 6 [追加 (Add)] をクリックします。

ステップ 7 [ディスカバリ ソース (Discovery Sources)] ページから、追加したばかりの vCenter サーバを検索し、その値を [仮想インベントリ収集ステータス (Virtual Inventory Collection Status)] 列に表示します。

[ライセンスなし (No License)] が表示された場合は、データセンターハイパーバイザライセンスをインストールする必要があります。サーバのインベントリ情報を収集するには、このライセンスが必要です。

関連トピック

[vCenter をインポートするための CSV ファイルの要件 \(2 ページ\)](#)

vCenter をインポートするための CSV ファイルの要件

CSV ファイルを使用して VMware vCenter Server を別のソースから Cisco Prime Infrastructure にインポートするには、次の手順を実行してサンプルテンプレートをダウンロードします。

1. [インベントリ (Inventory)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [コンピューティングデバイス (Compute Devices)] を選択します。
2. [コンピューティングリソース (Compute Resources)] ペインから、[ディスカバリソース (Discovery Sources)] をクリックします。
3. [デバイスの追加 (Add Device)] ドロップダウンリストから、[一括インポート (Bulk Import)] を選択します。
[一括インポート (Bulk Import)] ダイアログボックスが開きます。
4. 一括の仮想ディスカバリのサンプルテンプレートをダウンロードするには、[ここ (here)] リンクをクリックします。

Cisco Prime Infrastructure で完全なインベントリ収集を有効にするには、ディスカバリソースの CSV ファイルに次のパラメータの値を指定する必要があります。

- IPアドレス/ホスト名
- [パスワード (Password)]
- ポート番号
- [ユーザ名 (Username)]
- プロトコル

関連トピック

[VMware vCenter Server の追加](#) (1 ページ)

コンピューティングリソースパフォーマンスのモニタ

Prime Infrastructure は、定期的にデバイスをポーリングすることによって管理対象のコンピューティングリソースをモニタします。

Prime Infrastructure は、仮要素の健全性を監視するための CPU、メモリ、ディスク、およびネットワークに関連する Key Performance Indicator (KPI; 重要業績評価指標) の定義済みセットの定期的なポーリングをサポートしています。Prime Infrastructure は VM を直接ポーリングしませんが、アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) 経由で Vcenter から定期的にデータを取得します。デフォルトのポーリング間隔は 5 分です。次に示すようにポーリング間隔を変更できます。

関連トピック

[データセンターデバイスのポーリング間隔の設定](#) (3 ページ)

[クラスタ モニタリングのセットアップ](#) (4 ページ)

データセンターデバイスのポーリング間隔の設定

ポーリングは、データセンター、クラスタ、およびホストで有効にできます。これを行うと、ポーリングを選択したエンティティの子でポーリングが自動的に有効になります。たとえば、クラスタでのポーリングを有効にすると、そのクラスタに属しているすべてのホストと VM でもポーリングが有効になります。

ポーリング間隔を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [管理 (Administration)] > [設定 (Settings)] > [システム設定 (System Settings)] を選択し、[インベントリ (Inventory)] > [データセンターの設定 (Datacenter Settings)] を選択します。

ステップ 2 ドロップダウンリストからポーリング間隔を選択します。

デフォルト値は 5 分です。

ステップ3 [保存 (Save)]をクリックします。

関連トピック

[クラスタ モニタリングのセットアップ \(4 ページ\)](#)

クラスタ モニタリングのセットアップ

クラスタをモニタするには、次の手順を実行します。

ステップ1 [インベントリ (Inventory)]>[デバイス管理 (Device Management)]>[コンピューティングデバイス (Compute Devices)]を選択します。

ステップ2 [コンピューティングリソース (Compute Resources)]ペインから、[クラスタ (Clusters)]をクリックします。

ステップ3 モニタするクラスタのチェックボックスをオンにして [モニタリングの開始 (Start Monitoring)]をクリックします。

次の点に注意してください。

- クラスタのモニタを停止するには、この手順を繰り返し、ステップ3の代わりに [モニタリングの停止 (Stop Monitoring)]をクリックします。
- 親データセンターまたは親クラスタのモニタリングは子ホストまたは子クラスタからは停止できません。ただし、子ホストまたは子クラスタのモニタリングは親データセンターまたは親クラスタから停止できます。

関連トピック

[データセンター デバイスのポーリング間隔の設定 \(3 ページ\)](#)